

RBSS（優良防犯機器認定制度）の歩み

RBSSの活動状況



RBSS 委員会 委員長 佐藤 義行

1.1 RBSSの生い立ち

RBSS(優良防犯機器認定制度)は、平成20(2008)年にNTSC対応防犯カメラ(いわゆるアナログ防犯カメラ)とNTSC対応デジタルレコーダ(防犯用)の認定を開始しました。

協会は設立の定款に「検査・検定制度事業」を定めて、その実現に向け多くの諸先輩が約20年弱に3回の制度検討を行い努力されましたが実現できませんでした。

RBSS(優良防犯機器認定制度)は強い要望があった「防犯カメラ」と「デジタルレコーダ」を対象品目に定めて、「検査・検定事業」ではなく「自主認定事業」としたことで、関係各位の同意と協力を得てスタートできました。

RBSSの経緯:

平成19(2007)年 1 月	「認定基準作成WG」発足
同年 6 月	「優良防犯機器認定制度準備に関する特別委員会」(RBSS)に名称変更
平成20(2008)年 6 月	臨時総会にて制度承認
同年 10 月	RBSS発足 認定業務開始 対象:NTSC対応防犯カメラとNTSC対応デジタルレコーダ(防犯用)
平成22(2010)年10月	認定対象にIP-IF対応防犯カメラとIP-IF対応デジタルレコーダ(防犯用)を機種追加
平成23(2011)年12月	認定対象に記録一体型屋外用防犯カメラ(スタンドアロン型)及び近赤外照明搭載機種追加
平成24(2012)年 7 月	認定対象にPCベースデジタルレコーダ(防犯用)を機種追加
平成25(2013)年12月	認定対象にHD-SDI対応防犯カメラとHD-SDI対応デジタルレコーダ(防犯用)を機種追加
平成26(2014)年12月	認定対象にLED防犯灯を品目追加
平成27(2015)年12月	認定対象に全方位型防犯カメラと単焦点ズームの機種追加
令和 6 (2024)年 6 月	認定対象にAI画像解析機能を追加

令和 7 (2025)年 6 月 LED防犯灯の認定基準を改正
令和 8 (2026)年 6 月 JC-STAR制度との連携を開始

RBSSの経緯の表からもご理解いただけたと思います。防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)は、実際に使われる種類の大半をカバーするに至っています。

1.2 防犯カメラ関係のRBSS整備

IP-IFを搭載したいわゆるネットワーク防犯カメラは、RBSS発足当初から認定に入れる要望が強くありましたが、インターネット網との関係と通信キャリア網との関係及び互換性などの諸問題があり、当時の普及状態と協会の力量から2年遅れて平成22(2010)年のスタートになりました。

ネットワーク防犯カメラとネットワークデジタルレコーダ(防犯用)は、基本的に管理が可能な構内LAN内での使用を前提にしています。また、ネットワーク防犯カメラとネットワークデジタルレコーダ(防犯用)以外に映像ネットワーク部が必須ですので、使用するスイッチングハブとその設定を明確にする必要がありました。この関係のWGを継続して行い平成24(2012)年10月に「防犯カメラシステムネットワーク構築ガイド」を発行しました。

この頃から、ロシアのネットワークサイトなどで、インターネット網に接続するカメラで映像が公開されることが話題になりました。原因は、パスワードなどの認証機能を使わない問題と推測しています。この問題とインターネット関係の取り組みは4.で説明します。

平成23(2011)年に基準化した記録一体型屋外用防犯カメラはスタンドアロン型防犯カメラとも言いますが、現在では街頭防犯カメラの主流になりつつあります。

地上デジタル放送で使うHD-SDI方式は高解像度のハイビジョンやフルハイビジョンが使えます。これを利用した防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)は、海外の標準化では相互接続に問題があるとの情報を得ましたので、RBSSのHD-SDIは必ず相互接続できることを基本にして平成25(2013)年に基準化しました。

また、動線監視に適した魚眼レンズ採用の全方位カメ

ラは、測定方法の基準化に時間がかかりましたが、平成27(2015)年12月に基準化が完成し公開しました。

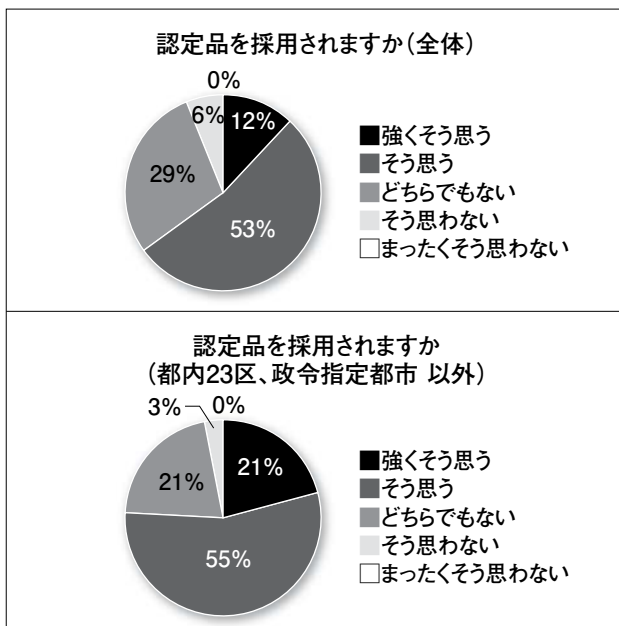
1.3 LED防犯灯のRBSS整備

平成26(2014)年12月に関係各位の同意と協力を得てRBSSの新しい品目として、LED防犯灯の認定を開始することになりました。なぜ、RBSSにLED防犯灯が対象になったか、再度簡単にご説明します。

LED防犯灯は平成20年ごろから、消費電力が少なく電気代が安くなること、省エネに貢献できること、寿命が長いなどのメリットのため、急速に設置が進みました。

それまでの防犯灯は、JISで規定された蛍光灯ランプを内蔵する方式なので性能・品質に大きな差はありませんでした。しかし、LED光源への交換需要を期待した新規参入メーカーが増えたこと、防犯灯に使用するLED光源部の基準が無いことなどにより、結果として性能・品質に大きな差が出ることもあり、採用する自治体関係者が困っておられました。取付け後に期待した効果が得られず取り替えた事例も散発しました。

防犯照明委員会で、大規模から小規模の自治体を調査したところ、基準を作り認定を望む声が特に小規模自治体で多いことが分かりました。



日本の照明基準を取りまとめる団体としては(一社)日本照明工業会(以下日本照明工業会)があります。この団体がLEDを使った照明器具の基準化をまとめ、LED防犯灯は「高品質LED防犯灯の性能要求指針」を作成しました。その要求指針には設置間隔性能及び照度基準として協会のSES E 1901(防犯灯の照度基準)が使われています。

そこで、協会と日本照明工業会が業務提携することになり、協会はRBSSの認定事業を行い、日本照明工業会は

技術指針を作成することになりました。

具体的には、RBSSの「5要求事項」は日本照明工業会の指針である「ガイドA137-3高品質LED防犯灯の性能要求指針」の性能要求事項を取り入れています。

なお、RBSSの他の項目は協会独自に作成しました。SES E 1901(防犯灯の照度基準)も従来通りの担当です。

防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)及びLED防犯灯のRBSSの整備には、のべ129名もの専門委員の方々が、安全安心まちづくりに役に立てるという共通意識を持ってご協力いただきました、厚く感謝いたします。

2. RBSSの共通機能と高度機能とは

RBSS(優良防犯機器認定制度)の下記説明文をご理解ください。この基本の文章の中にRBSSの意味や性格が書かれていますので、2つのポイントを説明します。

RBSS(優良防犯機器認定制度)は、公益社団法人日本防犯設備協会が一般の方々の安全・安心に寄与することを目的に、防犯機器に必要とされる機能と性能の基準を策定し、その基準に適合した機器を「優良防犯機器」と認定することにより、優良な防犯機器の開発及び普及促進を図る自主認定事業です。

1番目は、「防犯機器に必要とされる機能と性能の基準を策定し」として、犯罪防止に役に立つ機能と性能を協会が決めることです。

あたりまえですが色々な犯罪があります。RBSSには、どのような犯罪にも対応できるような防犯設備としての基準が求められますが簡単なことではありません。

そのためRBSSでは必要とされる機能と性能を、例えば防犯カメラであればあたり前に持っていなければならない機能と性能と、特定の場所や特定の犯罪に対応するために持つべき機能と性能の2種類に分けて定めています。前者を共通機能、後者を高度機能と呼んでいます。

高度機能を高級機能、つまり価格が高いもの、と間違える方がおられます。高度機能は特定の場所や特定の要求内容に対して必ず使わなければならない機能です。

2番目は、「優良な防犯機器の開発及び普及促進を図る」と記載している内容です。

RBSSは申請を受けて審査と判定を行いRBSS認定することが業務ですが、同時にRBSSとして認定した機器の普及促進を行う事と、優良な防犯機器の開発を図る役割があると記載しています。

つまり犯罪や防犯の変化などがあれば、一般の方々の安全・安心に寄与するために、認定する内容のレベルを遠慮なく上げるとか変えるなどを行い、優良な防犯機器を増やす役割も担っているわけです。継続して基準を見直す活動もRBSSの仕事です。

3. RBSSの採用状況

平成20(2008)年から始めたRBSSですが、一般の方々

の安全・安心にどの程度寄与できているのでしょうか。

RBSSだから使用いただく顧客、RBSSだから機種選定の仕様に使っていただく自治体、RBSSだから評価されるので申請される会社などの状況を説明します。

防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)の場合、使用者を官公庁や自治体などの官公庁需要とコンビニエンスストアや工場などの民間需要に分けると、民間の方が圧倒的に多いと思われます。

民間需要の大手顧客の金融機関に向けての取組みとして、RBSS委員会は金融基準WGを作り「金融機関等防犯カメラシステムの設計基準・解説」を平成26(2014)年11月に発行しました。この内容を(公財)金融情報システムセンター(以下略称 FISC)などに説明して、金融機関等の設備の基本になっている「金融機関等コンピューターシステムの安全対策基準・解説書」(以下略称 安対基準)第8版の追補改正版に紹介されました。

元々金融機関の防犯カメラ基準は、映像セキュリティ委員会が平成16(2004)年に作り警察庁に採用され、今までのFISCの安対基準に掲載されましたが、今回RBSS使用を前提とした新しい金融機関の防犯カメラ基準を、最新の安対基準に採用されたのです。

官公庁や自治体のRBSS採用については、警察庁と北海道警察本部、関東信越国税局と日本年金機構、愛知県小牧市と安城市、千葉県市川市などの案件に、RBSS認定品又は同等品などと記載されています。

RBSS委員会では、官公庁の入札案件について平成28(2016)年度に詳しい調査を行う計画を立てています。

防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)のRBSS認定会社は5年間で増加して、i-PRO(株)、アツミ電気(株)、池上通信機(株)、キャノン(株)、キング通信工業(株)、(株)熊平製作所、(株)ケービデバイス、(株)ケルク電子システム、(株)サンデジタルシステム、CBC(株)、(株)JVCケンウッド・公共産業システム、(株)ジャパン・セキュリティシステム、シャープ(株)、セコム(株)、ソニーイメージングプロダクツ(株)、竹中エンジニアリング(株)、TOA(株)、(株)ティービーアイ、(株)テスコムジャパン、東芝テリー(株)、(株)ドットウエル ビー・エム・エス、パナソニック・コネクト(株)、(株)国際電気、(株)日立産業制御ソリューションズ、(株)プロテック、三菱電機(株)、(株)レッツコーポレーションの27社になりました。日本の大手と中堅の会社が多く、関係会社の大半が参加された状況になりました。

LED防犯灯を使う方々は、現状では自治体や自治会及び町内会などが管理している蛍光灯防犯灯の置換が多いので、商店街や駐車場などの民間需要の比率は低いと想定しています。

当時の乗木RBSS委員会副委員長のLED防犯灯の入札案件の調査によって、平成26年7月～平成27年10月の約1

年間に東北と関東の以下の自治体において、RBSS認定品又は同等品であること、と記載した入札仕様があることが分かりました。

青森県鶴田町、岩手県遠野市、山形県高島町、同白鷹町、福島県須賀川市、栃木県足利市、同真岡市、同茂木町、茨城県かすみがうら市、同城里町、群馬県玉村町、千葉県松戸市、同横芝光町、同流山市、同柏市、同市川市、神奈川県小田原市、東京都西東京市です。

ちなみに上記のLED防犯灯の総台数は約15万1500台以上になります。

LED防犯灯のRBSS認定会社は、アイリスオーヤマ(株)、(株)因幡電機製作所、オーディリック(株)、かがつう(株)、(株)共立電照、シャープ(株)、東芝ライテック(株)、パナソニックエレクトリックワークス(株)の8社です。

LED防犯灯の大手と中堅の会社が参加しています。

4. RBSSの今後の取組み

平成11年度から、警察庁は「安全・安心まちづくり推進要綱」を制定し通達しています。最近の「安全・安心まちづくり推進要綱」は令和7(2025)年度に公表されました。

今回の改正ポイントは、①自治体等と協働した安全・安心まちづくりの推進、②資機材の整備、③自治体関係部局等との連携関係の構築、④防犯カメラの設置です。

④防犯カメラの設置については、設置に当たってのその他の留意事項として、必要な機能・性能と、情報セキュリティ対策、プライバシー保護が指示されており、特に必要な機能・性能として、RBSS、一定以上の画質水準、夜間撮影、保存期間3か月以上が記載されています。

防犯に使うカメラは、RBSS認定された機器を使うことが求められていると考えています。

要綱の主な改正点等①として、「安全・安心まちづくりの推進に係る資機材として防犯カメラを対策として、セキュリティ追加した。」が示されています。また②として、「道路、公園、駐車・駐輪場等において防犯カメラの設置を推進することが重要であること」、「自治会等の地域住民が街頭に設置・管理する防犯カメラに関し警察が必要な情報提供等を行うこと」が示されています。

RBSSの防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)は、これらに必要とされる機能と性能の基準に適合した優良防犯機器ですので、十分に役立てることができそうですし、必要とされる機会が増えると思っています。

一方、RBSSのLED防犯灯は、省電力で低電力料金、寿命が長い、そしてトラブルが起きず信頼性があるので、ますます普及すると思っています。

5. RBSSの認定状況

■RBSS認定実績 LED防犯灯【累計】

年度	認定会社数	認定事業所数	認定型式数	種別		
				10VA	20VA	40VA
～ 2023	8	12	192	102	68	22
2024	0	1	20	16	4	0
2025	0	0	0	0	0	0
合計	8	13	212	118	72	22

■RBSS認定実績 防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)【累計】

年度	型式	認定会社数	認定事業所数	認定型式数	種別				
					NTSC	IP-IF	HD-SDI	アナログHD	ハイブリッド
～ 2023	防犯カメラ	29	49	722	214	421	53	33	1
	デジタルレコーダ		23	235	97	104	2	14	18
2024	防犯カメラ	0	3	33	0	33	0	0	0
	デジタルレコーダ		0	16	0	15	0	1	0
2025	防犯カメラ	0	1	24	0	18	0	6	0
	デジタルレコーダ		0	8	0	7	0	1	0
合計	防犯カメラ	29	53	779	214	472	53	39	1
	デジタルレコーダ		30	259	97	126	2	16	18

■RBSS認定実績 防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)【非更新】

年度	型式	認定会社数	認定事業所数	認定型式数	種別				
					NTSC	IP-IF	HD-SDI	アナログHD	ハイブリッド
～ 2023	防犯カメラ	2	26	405	205	180	19	0	1
	デジタルレコーダ		14	158	97	44	2	0	15
2024	防犯カメラ	0	3	34	4	11	12	7	0
	デジタルレコーダ		1	5	0	1	0	4	0
2025	防犯カメラ	0	2	43	0	22	13	8	0
	デジタルレコーダ		4	9	0	5	4	0	0
合計	防犯カメラ	2	26	482	209	213	44	15	1
	デジタルレコーダ		19	172	97	50	6	4	15

■RBSS認定実績 防犯カメラとデジタルレコーダ(防犯用)【有効認定数(累計認定数合計-非更新合計)】

年度	品目	会社数	事業所数	新規型式数	種別				
					NTSC	IP-IF	HD-SDI	アナログHD	ハイブリッド
2025	防犯カメラ	27	27	297	5	259	9	24	0
	デジタルレコーダ		11	87	0	76	4	12	3

- RBSSの有効期間は5年ですので、防犯カメラとデジタルレコーダは2013年度から更新が行われています。非更新分を差し引いた有効認定数は防犯カメラ297型式、デジタルレコーダ(防犯用)87型式の計384型式です。
- ハイビジョンやフルハイビジョンの高画素画像サイズが扱えるIP-IF対応防犯カメラとHD-SDI対応防犯カメラなどのメガピクセルの機器が多くなっています。